

(仮称) 串本町立串本統合小学校基本設計・実施設計業務委託簡易公募型プロポーザル
審査経過及び審査講評

1. 選定結果

(仮称) 串本町立串本統合小学校基本設計・実施設計業務委託簡易公募型プロポーザルについて、公表した評価基準に基づいて審査を行い、次の通り設計候補者を選定した。

最優秀者 株式会社綜企画設計

優 秀 者 共同設計株式会社

2. 審査経過

簡易公募型プロポーザルとして、令和4年6月1日に串本町のホームページにて募集要領等を公表した。参加表明時点で7者から応募があり、応募資格審査を行った結果、全者に応募資格があると認め、技術提案書等の提出を依頼し、6者から書類が提出された(1者辞退)。

審査においては、文部科学省の先導的開発事業として「これからの串本小学校プロジェクト」において検討する4つのテーマ、「これからの学び」、「学校外の学び・一生の学び」、「レジリエントなまちづくり」、「海と森のまち」を基本に据え、建設予定地の地盤、気候、眺望、形状等を理解した計画であるか、事業費、建設スケジュール、維持管理費等について十分検討されているか等について、総合的な観点から比較検討を行った。

第一次審査は、令和4年7月22日に実施した。

審査に当たっては、見誤りや見落としがないように、上記の観点を含む項目からなる審査採点表を用意し、各審査委員は事前に提案書を読み込み、仮採点をした上で審査会に臨んだ。意見交換を行った上、各自、採点の修正を行い、その集計結果をもとにさらに議論を深めながら選考を進めた。

応募のあった6者の実績、コスト等の提案を事務局が整理し、上述の手順を経て技術提案書の内容について審議を行った。その結果、提案者番号913、915、916、917の4者をヒヤリング対象者とするのを全会一致で決定した。

第二次審査は令和4年8月2日に実施した。

ヒヤリングにおいては、提案のプレゼンテーションを受けた後の質問内容の確認の意味も含め、スケジュールやコスト、配置計画や建築計画の妥当性、チーム体制、質疑応答の的確さ、本プロジェクトに対する準備と意欲、文部科学省の先導的開発事業への理解度や対応等について評価採点表を事前に共有した。審査委員はヒヤリング後に採点を行い、集計結果も参考にしながら議論を進めることとした。

応募者によるプレゼンテーション及びヒヤリングの後、技術提案書の内容について評価すべき点、問題点等について意見を述べ合い、本事業の特色や新しい時代の学校施設の課題

についての理解度と提案性、避難場所としての機能性、大規模盛土造成による敷地条件を踏まえた配置計画や基礎工事に伴うスケジュールやコストへの配慮等に関する提案内容、および町と協働して業務を進める設計者として期待される柔軟性や、文部科学省の先導的開発事業を進める上での提案力を有するかという観点を含めて審議を進めた。

その結果、切土部分を活かした配置と、杭の必要性が少ない木造平屋建ての建物とし、地域材や地域力を活かした提案をもとに、上記の観点全てにおいて他者より優れていると評価された 2 者が最終候補となった。両者は甲乙つけがたく最終決定に至る審査は難航したが、僅差ではあるが最終的に評価が高かった 917（株式会社綜企画設計）を最優秀者とし、913（共同設計株式会社）を優秀者とするのが全会一致で決定された。

3. 個別審査講評

9 1 1

計画案自体は、大庇空間で子供と地域の人々を迎え入れる構え、中庭を挟んで一体感のある配置、普通教室と多目的スペースの組合せ等、一定の評価ができる。ただし、造成敷地への配慮がうかがわれず、提案に関する記述も一般的な内容にとどまり、これからの学校の在り方に関する提案性が感じられない。

9 1 3

敷地の特性を踏まえ、建物は木造平屋とし、道路側の切土部分に特別教室を配置してまちに対する顔をつくと共に、校庭に面して普通教室群が翼を広げたような伸びやかな配置は魅力的である。学校を「まち」と捉え、道路から前庭で地域の人々を迎え入れ、図書館を中心に体育館、特別教室等の地域利用施設群を配置している。木材利用について地元森林組合との連携や ZEB Ready に向けての具体的提案等、裏付けを持って提案がなされ、質疑に対する応答も的確で、本業務に対する理解度、準備やチーム体制のよさが感じられ、今後の学校づくりに対する柔軟で意欲的な姿勢が感じられた。強いてあげれば、小規模校であることに対して教室棟が長く、また校内の移動動線が長いこと、昇降口から校庭への動線、奥まった位置にある学童保育の配置等がやや難点と言える。

9 1 4

中庭とそれに面したメディアセンターを中心にコンパクトに配置された案であり、小規模校で活気と一体感が感じられる点は評価される。一方、教室を廊下に並べただけで、協働学習等、新しい学びに対する提案性が感じられない。昇降口から校庭への動線や、学童保育の送迎。災害時の校庭と体育館の位置関係等、建物全体の配置は問題である。エネルギー、木材活用について記述はあるが、一般的な記述に止まっている。

9 1 5

道路に面して木の雰囲気を感じられる外観は魅力が感じられる。T の字形をした建物配置であり、中心軸の構成にはロケットの学びの場の提案も含め意欲が感じられるが、一方、普通教室から特別教室や体育館等が遠く切り離されて一体感に欠けるのが残念である。災害

時の対応と学校運営との関係、木造についての質問に対する受け答えが不十分で、文部科学省の先導的開発事業に対する理解がなされていない印象を受けた。構想、計画を進める段階での提案力にやや疑問が残った。

916

校舎をコンパクトにまとめ、中心にメディアセンターを置き、普通教室、特別教室との密接な関係を生み出そうとしている点は評価される。一方、体育館が校舎から遠く離れていること、間に学童保育施設が配置されていることは疑問であり、体育館や地域利用の動線や管理ゾーニングが不明確である。災害時対応、木材活用等についての記述が一般的で、全体に本事業計画に即した内容となっておらず、職員駐車場からの動線についての質疑応答からも本案ありきという感じを受け、これから一緒に学校づくりを進めようとする柔軟な姿勢が感じられなかった。

917

町の課題および敷地の特性を理解した上、事業の目標を明確にとらえ、提案が求められたそれぞれの課題について具体的に密度高い提案がなされている。質疑応答からもチーム全体で本業務を理解している様子がうかがえ、柔軟にさらなるアイデアを出そうという姿勢が伝わってきた。計画提案では、道路に学童保育・地域連携施設で顔をつくり、全体を新たなまちの起点ととらえた上、中庭を挟みながら一体感を持たせ、その中心に図書館を配置している。敷地条件に対し、木造平屋の計画として棟ごとに特色を持たせ、材の調達について地元業者との連携を図るなど、準備を整えて提案されている。同じく教室まわりの構成等についても、今日的な課題をよく研究し、提案に盛り込んでいる。先導的開発事業のパートナーとして柔軟で積極的な取り組みが期待できる。

4. 審査委員会

審査委員（順不同・敬称略）

長澤 悟（委員長）	東洋大学名誉教授
豊田 晶章	和歌山県県土整備部公共建築課長
坂本 善光	串本町教育委員会指導主事
平井 治司	串本町副町長
濱地 弘貴	串本町教育委員会 教育次長
浅利 淳	串本町建設課長
名田 倍也	串本町企画課長

5. 謝辞

応募各者には、短期間にもかかわらず意欲的な提案を頂きました。最後になりますが、審査委員一同心より感謝申し上げます。

審査委員長 長澤 悟